

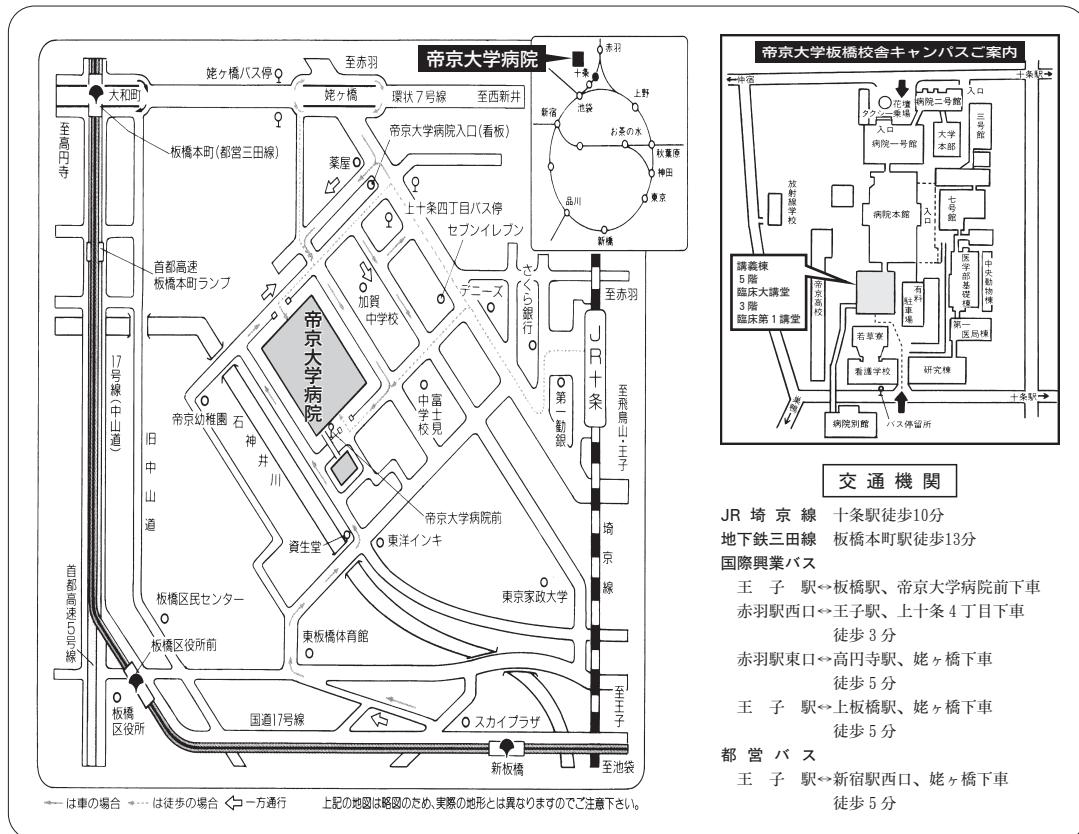
# 第 539 回

## 日本小児科学会東京都地方会講話会

### プロ グ ラ ム

**日 時** 平成18年 6月10日(土)午後2時00分

**場 所** 帝京大学講義棟臨床第1講堂(3階)



#### 演題の申し込みについて

1. 講話会の当日、文書で提出してください。
2. 抄録(200字内外)をおつけください。
3. 原則として指定発言者をご記入ください。
4. 演者、指定発言者は、当日抄録(200字以内)を提出してください。(日本小児科学会誌掲載の為)

#### 世話人

湊 通嘉  
プログラム係  
日本大学板橋病院小児科 03 (3972) 8111  
FAX 03 (3957) 6186  
会 場 係 中村 明夫  
帝京大学小児科 03 (3964) 1211 内線 1481  
直通(FAX) 03 (3579) 8212  
e-mail: pedi@med.teikyo-u.ac.jp  
事 務 局 03 (5388) 7007  
e-mail: shounihifuka@joy.ocn.ne.jp

# 第 539 回 日本小児科学会東京都地方会講話会演題

(1題 6分, 指定発言 5分, 追加討論 2分以内, 厳守のこと。○印演者)

第 1 グループ 14:00—14:35

座長 牧本 優美 (日本大学小児科)

1) 嘔吐と体重増加不良を主訴に発見された副腎不全の 1 例

○馬場 春奈, 吉川 尚美, 鈴木 光幸, 李 翼, 久田 研,

田所里枝子, 篠原 公一, 清水 俊明, 山城雄一郎 (順天堂大学小児科・思春期科)

日齢 20 男児。先天性代謝異常検査は正常。日齢 14 より嘔吐・哺乳力低下を認めた。その後、体重減少および電解質異常を指摘され当院へ紹介。入院時に低 Na, 高 K 血症、脱水を認め、副腎不全を疑い治療を開始した。色素沈着・高血圧・低血糖など典型的な症状を認めない副腎不全の 1 例を経験したので文献的考察を加え報告する。

2) 「ピジョン鼻詰まり改善薬®」塗布後にアナフィラキシーを呈した 1 例

○服部 希, 平野 幸子, 伊藤万由里, 白石 美香,

唐木 克二, 中山 智博, 坂内 優子, 大澤真木子 (東京女子医科大学小児科)

症例は 6 カ月女児。母が感冒症状に対し市販薬を 1 日 1 回前胸部に塗布した。2 日目に塗布した 10 分後より全身に膨疹が出現しチアノーゼ、喘鳴が出現したため来院した。アナフィラキシーと診断しボスマシン®, ソル・メドロール® の投与にて症状改善した。製造元に連絡したがアナフィラキシーの副作用報告はないとの返答であった。

3) 問診により難聴の家族集積性が判明し、ミトコンドリア DNA 変異を認めた 1 例

○佐々木 元, 星野 英紀, 高橋 寛,

三牧 正和, 水口 雅, 五十嵐 隆 (東京大学附属病院小児科)

症例は 11 歳女児。新生児期に腹壁破裂・短腸症候群にて手術・全身管理された既往歴がある。原因不明の両側性感音性難聴のため、普段から補聴器を使用していた。当科受診時、本人および母への問診にて、母・母の妹・患児の弟にも感音性難聴があることが判明した。高度な家族集積性、特に母系遺伝の可能性が考えられるため、ミトコンドリア異常を疑って遺伝子検査を施行したところ、ミトコンドリア DNA の 1555 位 A > G 変異を認めた。高音障害型の特発性感音性難聴の患者の一部にミトコンドリア DNA の変異を認めることが知られており、特にアミノ配糖体抗生物質に感受性のある感音性難聴と関連が深いとされている。抗生素使用に際しては、本疾患も念頭において、難聴の家族歴の聴取を行うことが必要であると思われる。

4) 低尿酸血症に伴う運動後急性腎不全の 2 例

○小山 哲, 板野 稔子, 萩田 佳織, 斎田 敏之,

新実 了, 中村 明夫, 柳川 幸重 (帝京大学附属病院小児科)

低尿酸血症に伴う運動後の急性腎不全の 2 例を経験した。症例 1 は 12 歳男児、症例 2 は 14 歳女児でともに運動負荷後に消化器症状にて発症。通常の尿酸値と尿中尿酸排泄率は症例 1 では  $0.7 \text{ mg/dl}$  で 49 %、症例 2 では  $0.7 \text{ mg/dl}$  で 43 % とともに尿酸排泄は亢進していた。負荷試験の結果もあわせて報告する。

休 憩 14:35—14:45

感染症だより 14:45—14:55

座長 山本 光興（山本小児科）

岡部 信彦（国立感染症研究所感染症情報センター）

教 育 講 演 14:55—15:25

座長 岩田 敏（国立病院機構東京医療センター小児科）

### 児童虐待をめぐる法律問題

磯谷 文明（弁護士・くれたけ法律事務所）

虐待を受けた子どもを救う際、壁となって立ちはだかるのは親権である。親権が最も鮮明なかたちで主張されるのが子の引渡請求であるが、最近、保護した後の親権者からの面会通信要求、必要な医療行為に対する不同意や妨害なども問題となっている。虐待防止には関係機関との連携が不可欠である。近年、医療機関においても守秘義務や個人情報保護といった点が強調されるが、それらを過度に強調するあまり、子どもの命が失われる事態があつてはならない。要保護児童対策地域協議会の活用も期待される。

第2グループ 15:25—16:00

座長 柏木 保代（東京医科大学小児科）

#### 5) 4カ月健診で発見された先天梅毒の1例

○梁 尚弘、窪井 育子、永田 俊人、  
七野 浩之、陳 基明、原田 研介（日本大学附属板橋病院小児科）

4カ月の女児。出生歴に特記すべきことなし。4カ月健診で肝脾腫を指摘され当科を受診した。白血球增多、貧血および血小板減少を認めたため白血病を疑い、骨髄検査を施行したが芽球は認めなかった。血清FTA-ABS IgM抗体が陽性であることから先天梅毒と診断した。母親の妊娠5カ月時の梅毒検査は陰性であった。文献的考察を加え報告する。

指定発言 山南 貞夫（川口市立医療センター新生児集中治療科）

#### 6) PSSP敗血症、股関節周囲膿瘍をきたした9カ月女児例

○片桐 大輔、武野 亨、瓜生 英子、山中 純子、  
早川依里子、佐藤 典子、國方 徹也、松下 竹次（国立国際医療センター小児科）

症例は9カ月女児。発熱3日目、WBC38500、CRP29.7。入院時血液培養から、PSSP検出。造影CTにて股関節周囲膿瘍認めたため、緊急切開排膿術施行。膿瘍は関節包内部には達していなかった。関節包に炎症所見なし。術後発熱なし。炎症所見も改善した。明らかな局所所見認めない症例でも炎症所見著明な場合には、全身検索の必要性も考慮すべきである。

7) 便塗抹検査が早期診断、治療に有用であったカンピロバクター腸炎の3症例

○千葉 幸英, 南風原明子, 宮田 有里, 斎藤 洋平,  
栗屋 敬之, 小口 学, 高田 昌亮 (東京都立豊島病院小児科)

腹痛, 圧痛, 白血球增多から急性虫垂炎が否定しきれなかった2女児例(7, 9歳), 強い腹痛, 多量の血便があり, 腸管出血性大腸菌感染が疑われた7歳男児例において, 便塗抹検査にて螺旋菌が確認された。腹部エコー, O-157抗原迅速検査とあわせ, 培養結果を待たずにカンピロバクター腸炎と早期に診断でき, エリスロマイシン投与を開始し著効した。

指定発言 柏 真知子 (東京都立豊島病院検査科)

第3グループ 16:00—16:25

座長 中村こずえ (帝京大学小児科)

8) 先天性免疫不全症候群に *Mycobacterium avium* complex (MAC) 感染による肺炎を来たした1例

○篠田 裕子, 大村 葉, 小林 由典, 山本貴和子,  
堀越 遊歩, 小泉 沢, 有瀧健太郎, 高山ジョン一郎 (国立成育医療センター総合診療部)

症例は4歳男児で、先天性免疫不全(NEMO症候群)で当院通院中に発熱・食欲低下・歩行困難を主訴に入院した。後腹膜膿瘍を認めドレナージ施行し軽快したが、炎症反応高値が持続した。その後肺炎・胸水貯留が出現し、胸水よりMACが検出された。抗菌薬4剤併用療法により軽快した。小児のMAC感染症にて肺炎を来す症例は稀であり報告する。

9) Numb Chin症候群をきっかけに診断された急性リンパ性白血病の1例

○正木 克宜, 下郷 幸子, 嶋 晴子,  
嶋田 博之, 森 鉄也, 高橋 孝雄 (慶應義塾大学小児科)

14歳男児。間欠的な大腿部痛、微熱を認め近医に受診。末梢血は正常であったが、下顎のしびれを訴えていたことから悪性腫瘍に伴うNumb Chin症候群を疑われ紹介入院。骨髄検査で急性リンパ性白血病と診断された。腫瘍随伴症状のひとつに下顎のしびれがあり、Numb Chin症候群として知られている。初診医である開業医師が本症候群を疑ったことが、急性リンパ性白血病の早期診断につながった。

10) 経鼻的腫瘍摘出術施行後良好な経過をたどった小児鞍隔膜下頭蓋咽頭腫の2例

○阿部 祥英, 斎藤多賀子, 森田 孝次, 板橋家頭夫 (昭和大学小児科)  
○谷岡 大輔, 和田 晃, 泉山 仁, 阿部 琢巳 ( 同 脳神経外科)

小児頭蓋咽頭腫2例を経験した。症例1, 9歳の男児。主訴は頭痛、多飲多尿、視野障害であった。症例2, 11歳の男児。主訴は頭痛であった。ともに画像検査で鞍内、鞍上部に腫瘍性病変を認め、経鼻的腫瘍摘出術を施行した。小児頭蓋咽頭腫に対する経鼻的腫瘍摘出術の報告は少ないが、下垂体機能温存や侵襲の観点から有用な術式と思われる。

## 運営委員会だより

1. 5月の講話会参加者144名、新入会9名（会員数1,770名）。
2. 本年度から地方会講話会は帝京大学の担当になりました。
3. 活発な意見交換の場とするために、発表者には積極的に指定発言を取り入れるようご考慮をお願いいたします。
4. 本年度の子どもの健康週間に例年通り地方会行事として参加します。開催は天候に左右されるため、会場場所について再考する必要があるかもしれません。

## 【会員登録事項の変更届についてのお願い】

- ・自宅、勤務先の住所（プログラム送付先）等の変更または、改姓があった場合は、速やかに東京都地方会事務局までご連絡下さい。登録事項変更届出用紙をご送付いたします。
- ・退会される場合も必ずご連絡ください。そのお届けがない場合は次年度も継続として年会費の請求を致します。

東京都地方会事務局 TEL：03（5388）7007／FAX：03（5388）5193

### Computer Presentationについて

Computer Projectionによる発表を受け付けます。ただしWindowsのみで下記要領でお願いいたします。Powerpoint 2000以上で作成、Font文字はPowerpoint備え付けのみ。CD-RもしくはUSBメモリーにて、第1、2グループ発表者は午後1時30分までに、第3グループ以降の発表者は午後3時までにスライド受付まで持参して下さい。機器操作は、当方で行います。あらかじめウイルスcheckをお願いいたします。

### 〈ベビーシッタールーム開設のお知らせ〉

乳幼児を同伴される方のために、ベビーシッタールームを開設します。利用ご希望の方は、利用日の1週間前までに事務局へお申し込み下さい。申し込みの際、お預けになるお子様の氏名・年齢・性別・及び預けられる時間帯を伺います。利用当日、お子様が好きな食べ物・飲料・おもちゃ・着替え・おむつなどに名前を付けてご持参下さい。また申し込み受付後、問診票に記載していただきすることをご了承下さい。キャンセルされる場合は、3日前までにご連絡をお願いします。なお費用は学会が負担いたします。

日本小児科学会東京都地方会事務局 TEL 03-5388-7007／FAX 03-5388-5193

## 演者の先生方へのお願い

一次抄録は160字以内に。また、二次抄録は日本小児科学会雑誌に掲載されますので規定の200字以内を厳守くださるようお願いいたします。（原稿は活字もしくはワープロ文字で）

Computer Presentationをお願いします。

WAKODO

乳幼児用イオン飲料  
**アクアライト ORS**

乳幼児の電解質・水分補給を新提案！

水分・電解質の吸収率を高めるため、浸透圧を200mOsm/Lと低くしています。

酸味を抑え、乳幼児が飲みやすいりんご風味です。

人工甘味料・保存料等は一切使用しておりません。



125mL×3個パック



乳幼児にとって理想的なバランスで電解質を補うことができます。  
125mLの飲み切りサイズです。

和光堂株式会社 お客様相談室フリーダイヤル 0120-88-9283

●インターネットで和光堂情報を提供しています。http://www.wakodo.co.jp

06.1

# 小児科臨床

第59巻 増刊号 6月20日発売  
定価 6,195円(本体 5,900円)

## 小児アレルギー学の新しい展開 —基礎研究の進歩と診療ガイドラインの整備—

### 【第1部 基礎研究の進歩】

### 【第2部 アレルギー診療の新しい展開】

第1章 小児気管支喘息

第2章 食物アレルギー

第3章 アトピー性皮膚炎

第4章 小児アレルギー関連領域

### 【トピックス】

アレルギー学の基礎研究に幾つかの新しい動きが見られ、診療面でも各種のアレルギー疾患の診療ガイドラインが相次いで出されてきています。

そこでこの特集の第1部では免疫遺伝学、消化管免疫学、ワクチン療法、ウイルス感染との関わりなど最新の研究報告を紹介し、第2部では、日頃診療室でしばしば出会う気管支喘息、食物アレルギー、アトピー性皮膚炎、アレルギー性鼻炎、薬物アレルギー、蕁麻疹などに焦点を当て、新しい治療管理ガイドラインのもとに、どのように診断・治療管理を進めていけば良いのかを具体的に30本弱にまとめています。

更には、アレルゲンを含む食品の表示法や低アレルゲン化食品の現状、プロバイオテックスなど、アレルギー患児の生活に必要な知識や興味ある話題をトピックスとして取り上げていますので、日常のアレルギー診療に大いに役立つ一冊となっています。